

YACかわら版 第31回

ナイジェリア体験

4月29日配信号

世界中が新型コロナウイルスによる脅威にさらされていますが今回は、私の仕事先であったナイジェリアでの体験を紹介します。

この国は右の図にあるようにアフリカの大国で北にはニジェールがあり、首都はアブジャです。（人口はラゴスが多い）ナイジェリアの出身でもあるボビー・オロゴンさんは有名ですね。他にもサハロフ賞、パリ名誉市民の称号を贈られたハウワ・イブラヒムさん等がいます。どんな人でしょうね。

国内にはたくさんの部族が住んでいて、私が1年ほど滞在した“カノ市”はハウザ族が多く住んでいます。言葉はハウザ語とって部族が使っている言葉ですが公用語は英語です。初めて彼らを見た時は不思議にみんな同じ顔に見えましたが慣れてくると、個々の顔の特徴がわかってきました。というのも顔に小さなイレズミをしている人が多く、生まれたばかりの赤ん坊を見分けるためだと言っていました。いつ頃からこの風習が始まったのでしょうか。最近は服を脱がないとわからないような箇所

に記しているそうです。国内の政情はあまりよくないです。過去には汚職や腐敗、クーデターがおきています。



カノ (1981-2010)の気候

[隠す]

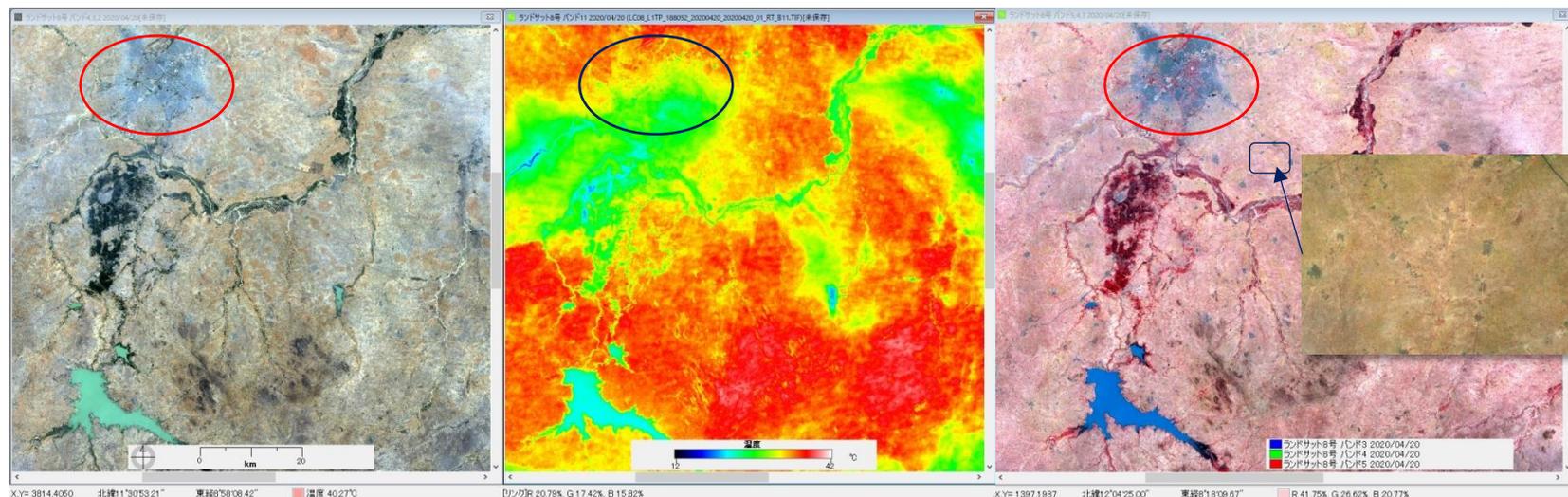
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均最高気温 °C (°F)	29.0 (84.2)	32.4 (90.3)	36.4 (97.5)	39.1 (102.4)	37.1 (98.8)	35.4 (95.7)	32.0 (89.6)	30.9 (87.6)	32.3 (90.1)	34.5 (94.1)	33.1 (91.6)	29.9 (85.8)	33.5 (92.3)
平均最低気温 °C (°F)	13.7 (56.7)	16.2 (61.2)	20.4 (68.7)	24.5 (76.1)	25.0 (77)	23.7 (74.7)	22.1 (71.8)	21.2 (70.2)	21.9 (71.4)	21.2 (70.2)	17.1 (62.8)	14.2 (57.6)	20.1 (68.2)
雨量 mm (inch)	0.0 (0)	0.3 (0.012)	1.0 (0.039)	14.1 (0.555)	57.3 (2.256)	132.5 (5.217)	281.0 (11.063)	323.9 (12.752)	155.8 (6.134)	14.1 (0.555)	0.0 (0)	0.0 (0)	980.0 (38.583)
平均降雨日数 (≥ 0.2 mm)	0	0	0	1	5	8	13	15	24	6	0	0	72
% 湿度	17.0	13.2	13.2	19.1	29.5	44.5	58.9	63.6	55.0	30.1	18.1	17.4	31.6
平均月間日照時間	244.9	232.4	238.7	234.0	263.5	261.0	229.4	220.1	240.0	266.6	264.0	260.4	2,955
平均日照時間	7.9	8.3	7.7	7.8	8.5	8.7	7.4	7.1	8.0	8.6	8.8	8.4	8.1

出典 1: World Meteorological Organization^[1]

上の表は滞在地“カノ”の気候を表したものです。日本の一番暑い季節は7月から8月ですがここは4月頃が一番熱い季節です。日本とはそれほど大きな違いはないように見えますが最低気温が日本より高いですね。典型的なサバンナ気候の土地です。私が滞在していた時は42°Cを超えた時もありました。以前紹介したバグダッドとは違い、湿気が多い場所なので体力が落ちてしまう時期です。地球温暖化が進み平均気温が5°C上昇したとしたら日本の最高気温が丁度この地と同じくらいになるのでしょうか。身体が気候に慣れるまで

最近ではニュースにもなっているテロ組織、ボコ・ハラムが武装闘争を行っていて治安が悪化しています。なぜこんなことになるのでしょうか。産油国でもあり作物にも困らないはずなのですが調べてみることで他の国同士の紛争の原因もわかってくるかもしれませんね。

楯円内はカノ市



何年もかかりそうですね。また、農産地も変わってきます。北海道ではミカンが栽培されたり、おいしいお米がとれなくなったりするかもしれませんね。前頁の右図はLandsat8で写した衛星写真フォルスカラー（植物が元気なほど赤色が濃く見える）です。見えにくいですが川の周辺には緑があり、カノ市内は建物があるためにあまり赤くはありません。郊外にはところどころ赤く見えるところがありますがサバンナ気候特有の植生です。右写真は日立のTVコマーシャルで有名な「気になる木」の写真を掲載しています。カノ周辺ではこのような気になる木がたくさんあって、つい、木の下に入って日陰で涼しみたくなる場所ですが上から何が降ってくるかわかりません。しかし、木の周辺の背の低い5~10cm位の草むらには日本でいうシジミチョウみたいな蝶々がいっぱいいて、そこを歩くと一斉に飛んでいく姿には驚かされました。



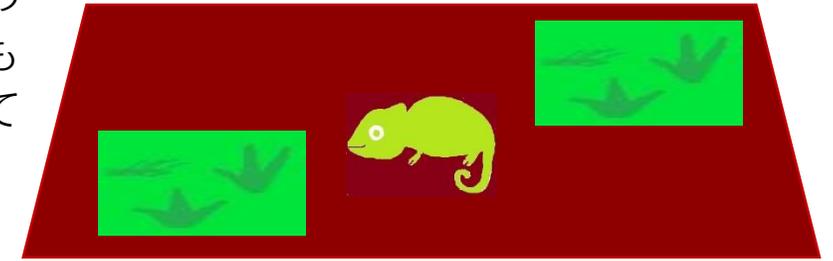
大小、こんな木がたくさんありました

Hitachi

カメレオンの飼育はたいへん

ここには象やキリンといったアフリカに生息する代表的な動物は見かけませんでしたがある日、家の外に出てみると目の前にカメレオンが歩いているのに気づきました。めったにないことなのですが周辺は赤っぽい土が多く、おそらく緑地から他の緑地へ行きかけたのでしょうか。当然野生です。捕まえるとフーっと空気を吐き出す音で威嚇してきました。歯や爪がないので簡単につかまえることができました。さっそくかごを作りその日から毎晩、照明に群がるイナゴを捕まえにいきました。生きたエサをかごの中に入れるとテレビで見た時のように長い舌が飛び出してきて見事に先のやや丸い部分にくっつけてキャッチ。イナゴが明かりにいなくて捕まえられない時はコガネムシに似た固い昆虫もあげました。但し、硬い部分は消化しないで出てきました。たまには日光浴をさせようと1m四方で背丈2cmくらいのところどころ土の見える草わらに放してあげました。

そして自分の目を一瞬そこから離し、もう一度カメレオンを見てもどこにしているのかわかりません。何故なのだろうと思い、じっくり観察（実際にはほとんど同じところにいるのに懸命に探していた）すると、ゆるやかな風が吹くとわずかに草が揺れますがその動作と同じく身体をゆらゆらと揺らしている。揺らしやすいように片手片足で立っている、右前足と左後ろ足だけで立っている。身体の色は周囲の様とそっくりに変化しているのです。イメージが極端かもしれませんが暗闇に黒服で隠れている忍者みたいです。帰国時に持ってかえってくるわけにはいきませんので草むらに放してあげました。



おそろしい病気

日本を出発する前には狂犬病の予防注射、マラリアの予防薬を携行、病原菌が多いと聞きやや腰が引けました。実際に近くのカドゥナリバーで泳いだ人が皮膚から入った菌に侵され、大変な目にあったと聞きました。この地で時々ボーっとしていてどこをみているのかわからない人を外で見かけますがマラリアの感染症（蚊が媒体するマラリア原虫による）にかかった人です。隣に住んでいた日本人は朝の体温は36°Cを切り、夜は40°C近くまで上がる。数日間つづき一挙にやせてしまいました。そのせいか気胸になってしまいました。帰国してしまいました。その後は回復したと聞いています。それから数か月後に帰国しましたがすっかり手洗いとうがいの回数が増え、癖になってしまいました。

アフリカは生息している動物見たさに一度は行って見たいと思う地ですが危険なところもいっぱいあります。住民はとてもいい人が多いのですが、皆さんが将来アフリカを訪れるようなことがあれば安全な国かどうかだけではなく、まずは歴史や文化、気候、宗教や政治などを調べてから行くことを勧めます。そうすれば人のお付き合いもきつとうまくいきますよ。